

## 令和6年度東京都立大江戸高等学校学校経営報告

令和7年3月 校長 高島 由紀子

### 1 今年度の取組状況

#### (1) 学習指導

| 重点目標                          | 具体的な方策   | 取組状況  |
|-------------------------------|--|---|
| (ア) 生徒の学力向上に向けた組織的・継続的な取組の推進  | <p>①学力向上委員会を開催（定期）し、学力向上研究（校内寺子屋）事業を通して、生徒（1年次）の基礎学力の定着を図る。</p> <p>②進学対策委員会を開催（定期）し、学力テストの分析を各教科で共有し、教科指導に生かす。</p> <p>③習熟度別指導授業、少人数指導授業、授業日の空き時間、長期休業中を利用した講習等を行い、習熟度に応じた学力向上を図る。</p> <p>④教科担任とクラス担任の連携を密にし、出席率の向上を図る。</p> | <p>①②委員会は年2回開催、校内寺子屋参加生徒延べ44名（1年次39名、2年次1名、3年次4名、4年次0名）委員会を定期化し生徒の学力を教科指導に生かすのが課題、次年度も事業継続</p> <p>③長期休業中に19講座開講、延べ受講者数228名、昨年度より講座数1講座減、参加生徒は7名増</p> <p>④履修率平均78.4%（昨年度より2.3%減）修得率77.9%（昨年度より3.5%増）</p> |
| (イ) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導の充実   | <p>①教科会（月1回以上）を開催し、教科マネジメントの定着を図る。</p> <p>②教師道場や指導教諭の授業参観、研修センター・民間等による研修に参加し、授業力の向上を図る。</p> <p>③校内研修を実施し、ICT機器、学習支援クラウドサービスを活用した教育活動の充実を図る。</p>   | <p>①ほとんどの教科で教科会を定期化、新学習指導要領及び観点別評価について協議、全教科での教科会の充実が課題</p> <p>②③教員への案内をきめ細かく行い、意識を高めたが、学んだ内容を授業改善に生かすことが課題</p>   |
| (ウ) 生徒の学ぶ意欲の向上に向けた学習評価の工夫・改善  | <p>①各教科で観点別評価を効果的に実施するための研究を行い、学習到達度や学習経過の評価を生徒に還元することで学習意欲の向上につなげる。</p> <p>②相互授業参観（通年）を通して、生徒理解及び教科横断的な指導の工夫・充実により自己肯定感の向上を見据えた学習意欲の向上を図る。</p>  | <p>①学習課題の提出等に一人一台端末を含むICT機器の活用により生徒の学習経過、到達度や理解度等を多面的に把握、教科の特性に応じ、効果的な機器の活用を推進し、生徒の学習意欲をより向上させるのが課題</p> <p>②ほとんどの教員が相互授業参観をし、ICT活用した授業改善を検討しているが個人差が課題</p>  |
| (エ) 言語能力の向上に向けた読書（新聞も含む）活動の充実 | <p>①授業、ホームルーム活動、年次行事等において図書館利用の推進、読書活動の活性化を図る。</p> <p>②一人一冊以上読破を目指すとともに、校内「高校生書評合戦」に取り組む。</p>  | <p>①授業等における図書館利用が活性化したこともあり、貸出冊数は5,030冊（生徒3,921冊、教職員1,105冊）となり、昨年度より約27%貸出冊数が減少した。本校生徒がポプラ社「全国学校図書館POPコンテスト」に応募</p> <p>②代表生徒が都大会に出場</p>   |
| (オ) グローバル人材の育成                | <p>①「東京グローバル人材育成計画」を踏まえ、JETやALTを積極的に活用し、異文化理解の促進を図り英語によるコミュニケーション能力を高め、グローバル人材を育成する。</p>   | <p>①教科内研修を通して、JET及びALT等と連携した授業実践を推進、生徒の実態を捉えた教科指導、留学等の情報提供により1名が留学に踏み切り、グローバル人材としての力をつけて帰国した。</p>   |

(2) 生活指導

| 重点目標   | 具体的な方策  | 取組状況   |
|--|---|--|
| (ア) 安心・安全な学校生活の推進                              | <p>①全教職員による授業規律を徹底し、落ち着いた学習環境を整える。</p> <p>②授業開始と終了の時間を徹底して生徒の時間を守る意識を高める。また、終始のメリハリをつけるために挨拶を励行する</p> <p>③いじめに関する調査を実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期解決を徹底する。</p>  | <p>①ほとんどの授業で授業規律が定着、個別対応を継続</p> <p>②外部来校者に対する生徒の挨拶は改善に向かいつつあるが、教員からの生徒や保護者への丁寧な挨拶を通して更なる改善を目指す。</p> <p>③組織的な取組を実施、家庭と連携しながら早期発見・改善を徹底</p>  |
| (イ) 生徒一人一人の社会的・職業的自立の実現に向けた規範意識(生活習慣、身だしなみ)の育成 | <p>①生活指導基準を基に、全教職員による統一した生活指導(遅刻防止、頭髪及び服装等)に取り組む。</p> <p>②公共の場や学校生活を送る上でのルールやマナーを厳守させ、規範意識を高める。特に、全教職員の指導によるSNSルールの徹底を図る。</p>   | <p>①個々の生徒の状況を教職員全体で共有しながら指導・支援を継続、個々の生徒の状況を共踏ました指導・支援方針の共有が課題</p> <p>②機会を捉えた指導を継続、一人1台端末を活用し、家庭との連携の強化と継続した指導が課題</p>   |
| (ウ) 生徒一人一人に応じたきめ細やかな組織的指導の徹底                   | <p>①教育支援委員会の参加メンバーを全ての年次分掌に拡大し、毎週開催することで各生徒の状況を早期に把握・共有し、生徒の状況に応じた自己肯定感の向上を見据えた指導体制を構築する。</p> <p>②SC、YSW、その他専門機関と連携し、中途退学や不登校の未然防止を図り、生徒の自立につなげる。</p> <p>③1年次の二人担任制、2年次生以上の担任と副担任の連携(平常時定期的に担任の代わりにSHRを担当することも含む)により、多面的な生徒支援を継続して行う。</p> | <p>①委員会はほぼ毎週行い、校長も参加し年間29回開催、指導・合理的配慮を含めた支援体制を構築</p> <p>②SSCを含めた専門家の支援・助言を踏まえた指導・支援体制を構築、専門家と教員間の情報共有を図り、生徒・保護者の状況に応じた指導・支援を実施、教員間の早期の気付きと体制づくりが課題</p> <p>③1年次二人担任継続、教員間の多様な見方を生かした指導が課題</p> |
| (エ) 校内美化、環境に配慮した意識と実践力の向上                      | ①委員会活動を中心に、校内美化に努めるとともに、節電、省エネに向けた意識と実践力の向上を図る。   | ①委員会活動を通して生徒の主体性を伸長、校内美化の徹底、使用していない教室の消灯等が課題   |

(3) 進路指導

| 重点目標  | 具体的な方策  | 取組状況  |
|---|---|---|
| (ア) 自己肯定感の向上、コミュニケーション能力、社会性の育成を踏まえたキャリア教育の充実 | <p>①キャリア教育全体計画を基に、組織的なキャリア教育を実践する。</p> <p>②キャリア教育推進委員会を中心に「チャレンジ指定科目」の指導内容・指導方法を常に検討し、改善を図る。</p> <p>③計画的・系統的なキャリア教育の取組を通して、自己理解を深めることで自己肯定感の向上を見据えた自己将来設計につなげる。</p> | <p>①②感染症対策を講じた取組を踏まえ、生徒の実態を捉えた取組を実践、地域と連携した取組をどのように取り戻していくかが課題</p> <p>②1年次「産業社会と人間」でライフプランを作成、発表会を実施、3年次「総合研究」で課題研究発表会を実施、系統的に自己理解を深化</p> |
| (イ) 3修制、4修制に配慮した進路指導体制の確立                     | <p>①ガイダンスの実施とともに、ハローワーク等の外部機関との連携を深め、進路指導の充実を図る。</p> <p>②学力テストによる学力の推移の把握、資格取得の奨励など組織的な</p>   | ①就職、公務員、専門学校及び大学・短大進学を目指す生徒の進路希望に応じた進路ガイダンスを実施、進路決定率81.4%(昨年度より0.9%増)   |

|                             |  |   |
|-----------------------------|--|---|
|                             | 取組を生かした進路指導を行う。  | ② 学力テスト年2回実施、進学対策委員会による結果分析を継続、資格取得者141名と昨年度より5名増加  |
| (ウ) 個々の希望進路の実現に向けた組織的な指導の充実 | <p>①特別な支援を必要とする生徒に、合理的配慮を踏まえた組織的な就労支援体制等を構築し、卒業後の移行支援を見据えて指導する。</p> <p>②特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援学校のセンター的機能を活用した進路指導の充実を図る。</p> <p>③進路指導部、年次(複数担任制及び担任と副担任の連携)、教育支援委員会等が綿密に連携することで本校での卒業を大切にし、進路未定者を減らす。</p> | <p>①②教員間の生徒理解を深める情報共有会を年4回実施、希望進路実現のための指導計画・指導体制を共有、生徒理解を組織的に深めるために校内研修を年2回実施、今後も校内研修を通して支援体制を再考することが課題</p> <p>③自立支援担当教員を中心に生徒の自立支援に関わる取組を実施、単位修得率の平均77.9%、履修と併せ修得率の向上に向けた組織的な取組が課題</p> |

#### (4) 特別活動・部活動・その他

| 重点目標                           | 具体的な方策   | 取組状況  |
|--------------------------------|--|---|
| (ア)生徒会活動、学校行事の取組               | <p>①コロナ以前に近い生徒会活動、学校行事ができるよう取り組む。</p> <p>②生徒が生徒会活動や行事に主体的に参加できるように導き、楽しさを実感できるようにする。</p>   | <p>①熱中症対策のため大きな体育館を借りて体育祭を実施、参加率81.4%</p> <p>②全校生徒による飛翔祭(文化祭)を実施、参加率72.2%、更なる参加率の向上が課題</p>  |
| (イ)生徒の自己肯定感及び社会性を高める活動の充実      | <p>①年次集会や部集会を活用し、講話や生徒会からの情報発信等を通して自己肯定感を高めるとともに、大江戸生としての自覚と連帯意識を育む。</p> <p>②部活動加入を促進し、生徒の体力や気力の向上を図るとともに、達成感や満足感を経験させることで、自己肯定感を高め、主体的に活動することの意義を感じさせて、リーダーの育成を図る。</p> <p>③地域における生徒会活動、部活動の取組を通して自己肯定感や社会性を高める。</p> | <p>①生徒が一堂に会する際、生徒会役員が中心となって会を運営、生徒主体の活動を推進</p> <p>②部活動加入率44.6%、昨年度同様。昼夜間三部制における活動時間及び活動場所の課題を踏まえ、各部活動における部員の定着が課題</p> <p>③江東区民祭りに参加するなど、地域連携の取組を活性化</p> |
| (ウ)地域と連携した防災教育の充実              | ①地域と連携した避難訓練等を実施し、社会連帯の精神と責任を重んずる態度を育成する。  | ①防災教育推進委員会開催に合わせて避難訓練を実施、江東区及び消防署担当者による講話を実施  |
| (エ)体罰、暴力的指導、行き過ぎた指導のない部活動指導の徹底 | <p>①部活動の顧問教諭は、部活動の「指導方針等」を作成し、生徒・保護者に対して説明を行い、さらに保護者に対して指導状況の参観の機会を設ける等体罰防止に向けた取組を行う。外部指導員については、経営企画室を含めて委嘱・承諾を適切に行う。</p> <p>②体罰について、実態調査とともに校内研修を行う。</p>  | <p>①感染症対策を踏まえた部活動を実施した。一部の部活動において部活動指導員を配置、その他外部指導員と併せ、顧問を通して手続きや生徒指導の徹底が課題</p> <p>②管理職による校内研修の実施、体罰の実態調査から生徒の声を掌握、体罰の未然防止の徹底が課題</p>                    |

(5) 健康づくり

| 重点目標   | 具体的な方策  | 取組状況   |
|--|---|--|
| (ア) 体力向上に向けた取組の充実                                | ①「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、授業や部活動などを通して、総合的な基礎体力の向上を目指すとともに、人生100年時代に向けて、楽しみながら自ら体力を高めていく習慣を身に付けさせる。   | ①「身体を動かしたぞ！カード」を新設し、生徒の身体を動かす意欲を高めた。   |
| (イ) 多様な生徒に対応した自己肯定感を高められる教育相談体制の確立と事故防止に向けた取組の推進 | ①心と体の健康づくりへの組織的な取組を行い、自己肯定感の向上を図るとともに、SOSの出し方に関する教育を行うことで生命に関わる事故の未然防止を図る。<br>②「特別支援教育の推進について」の趣旨を理解し、合理的配慮を踏まえて「精神科医による校医事業」「特別支援教育心理士巡回相談事業」「通級指導」「校内別室事業」を活用するとともに関係機関との連携を図ることで教育相談体制を強化することで学校に通いやすくする。    | ①保護者と連携した生徒情報を教職員間で共有し、事故未然防止を徹底、生徒状況に応じた迅速な校内体制の構築が課題<br>②都の様々な事業を活用することで、専門家の視点を生かし、学校主体の支援・指導体制を継続不登校の未然防止を目指した。  |
| (ウ) 健康づくりに向けた組織的な指導の充実                           | ①学校保健計画に基づき、生徒・保護者の主体的な意識の向上に向けた指導の充実を図る。<br>②心の健康づくり（自己肯定感の向上含む）、食物アレルギー等の健康課題を理解するための校内研修を実施し、組織的・具体的な指導を行う。<br>③生徒に対し、薬物乱用防止教室、情報モラル・リテラシーに関する教室、交通安全教室、喫煙防止教室等を通して指導する保護者にも保健だよりや年次通信の配布等により、子供理解のための支援を行う。 | ①定期健康診断等の実施、定期的な保健だよりの配布を通して、健康管理における主体性を醸成、その都度、生徒の実態を踏まえた指導体制を整備することが課題<br>②年度当初にシミュレーションを取り入れた食物アレルギー等に関する校内研修を実施、緊急時の生徒対応を共有<br>③薬物乱用防止教室を効果的に実施できた。生徒の健康維持・向上に関する保護者への情報発信と協力依頼が不十分、保護者と連携した指導が課題 |
| (エ) 学校給食を活用した食育の推進                               | ①給食費負担軽減事業（無償化）による喫食生徒の増加に対応しつつ、栄養職員、給食担当教員、クラス担任等を中心に、学校給食を活用した食育の一層の推進を図る。給食だよりを通して、食に関する知識と正しい食生活について理解を深めさせるとともに、食の楽しさを伝える。   | ① 年度末にかけて給食の喫食者が減少する傾向が継続、次年度の給食費無償化を見据えて、校内体制の整備が課題、実際の食数率（喫食率）75.2%  |

(6) 募集・広報活動

| 重点目標            | 具体的な方策  | 取組状況  |
|-----------------|---|---|
| (ア) 募集・広報活動の活性化 | <p>①総務部を中心に、ホームページ等を介して学校情報を積極的に発信し、応募倍率の向上に向けた組織的な取組を行う。</p> <p>②学校見学会、体験授業、学校説明会、募集要項説明会等の計画的な実施。</p> <p>③退職教職員等ボランティアを活用し、平日における個別学校見学を実施する。</p> <p>④各種通知文や年次通信等をホームページに掲載し、在校生保者、中学生やその保護者に対して教育活動の周知を図る。</p> | <p>①ホームページ更新回数67回、中学生向けのLINEも2年目となつた。学校の取組を迅速に情報発信する体制づくりが課題</p> <p>②見学会・説明会等を計画通りに実施、授業公開はコロナ前の体制に戻して実施、4校(大江戸・浅草・一橋・足立東)合同説明会、江戸川区立中学校進路指導担当教員を対象とした説明会を実施、適応指導教室等主催による説明会に参加し、学校の取組を発信</p> <p>③退職ボランティアによる個別学校見学対応123組135名、日程調整に課題</p> <p>④学校の取組を迅速に情報発信するのが課題</p> |

(7) 学校経営・組織体制

| 重点目標                | 具体的な方策   | 取組状況  |
|---------------------|--|---|
| (ア) 組織的・計画的な学校運営    | <p>①企画調整会議を中心に、主幹教諭、分掌等主任、経営企画室が一体となった学校運営に取り組む。</p> <p>②校内研修やOJTを通して、目指す学校像及びグランドデザインの共通理解を図り、一貫した協働的指導体制による学校運営に取り組む。</p> <p>③学校経営計画の実現に向け、経営企画室としての機能強化を図る。</p> | <p>①企画調整会議(月5・6)、主幹会議(火7)を開催、主幹会議を全主幹教諭が参加できる曜日と時間帯に設定することが課題</p> <p>②見直したグランドデザインについて共通理解を図った。企画調整会議を核とし、組織的な取組を継続、チャレンジスクールにおける組織体制をその都度見直し、組織体制を構築</p> <p>朝・昼の全体打ち合わせ、管理職打ち合わせを通して、教育職員と行政職員の動静を確認、周知を徹底し、共通理解に基づいた学校運営を継続</p> <p>③予算執行状況を踏まえ、経営企画室路との連携を強化した。</p> |
| (イ) 服務事故の根絶         | <p>①各学期研修を実施するとともに服務事故防止面接を実施する。</p> <p>②保有個人情報安全管理基準を見直し、内容を教職員に周知徹底する。</p> <p>③クリーンデスクを奨励する。</p>   | <p>①安全安心のために事故防止に向けて各学期の研修のみならず、日々注意喚起を行った。</p> <p>②周知徹底を図った。</p> <p>③日々声掛けを行った。</p>  |
| (ウ) ライフ・ワーク・バランスの推進 | <p>①「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」に基づき、会議の短縮化、定時退庁を推進し、時間外勤務の縮減を図る。</p> <p>②年間20日の年次有給休暇の取得に取り組む。</p> <p>③ストレスチェック「仕事のコン</p>  | <p>①TAIMSメールやTeamsを活用した周知、校務の効率化をより一層図ることが課題</p> <p>②夏季休暇と併せて、年休を取得できるよう、校務体制を構築するのが課題</p>  |

|                                   |  |  |
|-----------------------------------|--|--|
|                                   | トロール」「職場の支援」の値をそれぞれ 100 以下にする。<br>④男性の育児休業取得率を 50% 以上にする。  |  |
| (エ) 自律経営推進<br>予算の有効活用と学<br>校環境の整備 | ①予算の有効活用と一般需用費におけるセンター執行率の向上を図る。<br>②施設・設備の安全確認、効率的利用の視点から校内外を巡視するとともに、より安全・安心な学校環境の整備を図り、不備による事故をゼロとする。 | ①年度末センター執行率62%<br>②施設・設備を起因とする事故なし、開校以来の経年変化により、不具合箇所が目立ち、その都度行政職員と教育職員で共有し改善策を立案、生徒の安全・安心の確保を徹底 |
| (オ) 安全管理、危<br>機管理体制の整備            | ①施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。<br>②非常時を想定した実地訓練を行う。  | ①災害発生時における危機管理体制の機会を捉えて確認継続<br>②予告なしの避難訓練を2回実施   |
| (カ) 新学習指導要<br>領の実現に向けた取<br>組の推進   | ①グランドデザインの見直しとともに、目指すべき生徒の将来像の実現に向けた教育実践について、全教職員で共通理解を図る。新学習指導要領の実現と教育目標を効果的に達成するための教育課程を編成する。          | ①グランドデザインの見直しを踏まえ、育成すべき能力や目指す生徒像を再確認、新学習指導要領を踏まえ、自立活動を加えた教育課程を編成                                 |

## 数値目標

- ア 生徒による授業評価において、満足度、理解度 70% 以上。【61. 2%】
- イ 教員による相互授業参観を学期 1 回以上、ICT 機器、学習支援クラウドサービスの活用推進に向けた校内研修を年間 2 回以上【相互授業参観学期 1 回以上、ICT 関係研修 3 回】
- ウ 1 年次の基礎学力テストで、英語、数学の学力段階 D3 を 30% 以下、C 以上を 30% 以上  
【 D3 : 25. 7%、C : 42. 9% 】
- エ 検定合格を奨励し、検定合格者 150 名【141 名】
- オ 生徒の進路決定率 80% 以上【72. 4%】
- カ 学校行事、年次行事の生徒参加率 80% 以上【体育祭 81. 4%、文化祭 72. 2%】
- キ 部活動加入率 45% 以上【44. 6%】
- ク 学校説明会の参加者 800 人以上、個別学校見学 150 人以上  
【学校説明会の参加者 640 人以上、個別学校見学 136 人以上】
- ケ 入選倍率 1. 3 倍以上【1. 27 倍】
- コ 給食喫食実際の食数率 80% 以上【75. 2%】
- サ ホームページ等の更新を年間 30 回以上【67 回】
- シ 自律経営推進予算のセンター執行割合 60%【62%】